



コーネリア・パーカー《コールド・ダーク・マター: 爆発の分解イメージ》1991年
Photo: Tate © Cornelia Parker, courtesy Frith Street Gallery

YBA & BEYOND

British Art in the 90s from the Tate Collection

テート美術館 | YBA & BEYOND
世界を変えた90s英国アート



Organised in collaboration with Tate

京都市京セラ美術館
Kyoto City KYOCERA Museum of Art

《報道関係者お問い合わせ先》

「テート美術館 — YBA & BEYOND 京都展」広報事務局（TMオフィス内） 担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 EMAIL：ybabeyond@tm-office.co.jp

開催趣旨

本展は、テート美術館が所蔵する同館のコレクションを中心に、1990年代の英国美術の革新的な創作の軌跡を多角的に紹介します。

50名を超える作家による約90点を通して、この時代のクリエイティブな熱狂がいかに関世界のアートシーンに決定的な影響を与えたかを検証するこれまでにない画期的な内容です。

出展作品は多岐に渡り、ダミアン・ハースト、トレイシー・エミン、ヴォルフガング・ティルマンスなど、サッチャー政権時代を経て緊張感漂う英国社会で登場した実験的な作家たちの作品を一堂にご覧いただけます。

大衆文化、個人的な物語や社会構造の変化などをテーマとし、絵画、彫刻、写真、映像、インスタレーションなど多様な手法を用いた独創的な作品の数々をご紹介します。

【東京展は、2026年2月11日～5月11日の会期で、国立新美術館にて開催中です。

京都展以降の巡回は予定しておりません。】



コーネリア・パーカー 《コールド・ダーク・マター：
爆発の分解イメージ》

1991年 テート美術館蔵

Photo: Tate

© Cornelia Parker. Courtesy Frith Street
Gallery, London



ヴォルフガング・ティルマンス
《ザ・コック（キス）》

2002年 テート美術館蔵

© Wolfgang Tillmans, Courtesy of Maureen
Paley, London; Galerie Buchholz; David
Zwirner, New York

★ジリアン・ウェアリング 《ダンシング・イン・ペッカム》以外はすべてテート美術館の所蔵作品

「YBA」とは

1988年8月、ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジで学んでいたダミアン・ハーストは、ロンドン東部の倉庫街で学生や卒業生の作品を発表する展覧会「フリーズ」展を企画しました。ハーストや同世代の作家たちは、全く新しい視点で素材を選び、制作し、発表の機会を積極的に開拓していったのです。1992年に『アート・フォーラム』誌上で美術史家のマイケル・コリスは彼らを「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）」と呼び、サーチ・ギャラリーで開催された同名の展覧会によりYBAという言葉は一般に広がっていきました。YBAの作家たちの自由な活動によって、90年代の英国のアートシーンは世界的な注目を集めるようになったのです。



ダミアン・ハースト《後天的な回避不能》
1991年 テート美術館蔵
Photographed by Prudence Cuming Associates
© Damien Hirst and Science Ltd. All rights reserved,
DACS & JASPAR 2026 G4170

テート美術館とは

テート美術館は、英国を代表する国立美術館のひとつであり、英国政府が所有する1500年以降の英国美術、および世界各地の近現代美術のコレクションを収集・保存・公開しています。国内には4つの美術館を展開しており、その第一の拠点であるテート・ブリテンは、ロンドンのミルバンクに位置し、1897年の開館以来、英国美術のナショナル・コレクションの本拠地となっています。最大規模を誇るテート・モダン、ロンドン中心部のテムズ川沿いにある旧発電所を再利用し、2000年に開館しました。近現代美術を専門とする美術館としては、世界で最も多くの来館者を誇る施設です。



テート・ブリテン Photo © Tate



テート・モダン Photo © Tate

1

英国美術の世界的中心地 テート発の“UK90s”展

テート美術館が自ら編んだ、
YBAと90年代英国アートの決定版。

2

伝説の スターアーティストの競演

ダミアン・ハースト、ジュリアン・オピー、
ルベイナ・ヒミド、レイシー・エミン、
ヴォルフガング・ティルマンスなど、世界のアート
史に名を刻むアーティストの作品が集結。

3

音楽×サブカル×ファッションの 熱狂と呼応するアート

UKカルチャーが溢れた黄金期の息吹。
90年代の英国で起こったアート、音楽、
ファッションの革命的ムーブメントの核心を
体験できる、唯一無二の展覧会です。

テート美術館のキュレーター

Gregor Muir グレゴール・ミューア

テート美術館にとって初めての「90年代の英国美術」を振り返る展覧会を、東京と京都の名高い美術館で開幕できることを、大変光栄に思います。1990年代の英国は、政治・経済・文化の面で大きな変革を経験した時代でした。そうした社会状況のなかで、多くのアーティストたちが新たな表現や探求に挑戦していきました。来場者の皆さまにとって、本展が、変化に富む英国社会の中で生まれた作品や作家の精神の神髄に触れる機会になればと願っています。変化の著しい現代においてもなお、この時代の芸術は重要な意味を持ち続けています。

《プロフィール》

グレゴール・ミューア は、テート美術館のコレクション部門ディレクター兼キュレーターとして、英国のみならず国際的な視野で同館のコレクションの発展を牽引しています。これまで、テート美術館をはじめ、ICA（ロンドン）、ハウザー＆ワース、そして自身が1997年に設立したLUXギャラリーなどで活動し、現代美術における国際的な貢献を果たし、重要な役割を担ってきました。

1990年代初頭から中盤にかけては、ジェイク&ディونس・チャップマン、ケリス・ウィン・エヴァンス、ゲイリー・ヒューム、サム・ティラー＝ウッドらを取り上げる先駆的なビデオプログラムやグループ展を数多く企画しました。



Helen Little ヘレン・リトル

1990年代において英国のアートシーンと深いつながりを持っていた日本で本展を開催できることを、大変うれしく思います。展覧会の企画を進める中で、多くのアーティストが日本で作品を発表したり、日本から創作のインスピレーションを得たりするなど、両国の間に数多くのつながりがあることを改めて確認することができました。英国の歴史の一時代を従来の美術史的な枠組みを越えて掘り下げ、英国各地で展開されたアーティストたちの活動とその成果を一つの物語として描き出すことは、とても意義深く充実した経験でした。来場者の皆さまにも、地域間のつながりや、変革と創造に満ちたあの時代の空気を感じ取っていただけたら幸いです。



《プロフィール》

ヘレン・リトルは、20世紀および現代の英国美術を専門とし、現在はテート・ブリテンの現代美術部門のキュレーターを務め、また、テート美術館の国際プログラムにも積極的に関与しています。これまでターナー賞展をはじめ、1980年代の英国における写真表現を総覧する展覧会など、批評家から高い評価を得た企画を多数手がけてきました。また、デイヴィッド・ホックニーやクリス・オフィリといった世界的アーティストの大規模な回顧展も企画・監修するなど、英国美術界において重要な役割を果たしています。キュレーターとしての活動に加え、近現代の英国美術に関する書籍や展覧会カタログの編集・執筆にも取り組んでおり、美術史的な研究と実践を架橋する活動を展開しています。

本展は、90年代の英国美術の独自性を
6つのテーマを通じて検証し、
各章をつなぐ重要な作品を「スポットライト」として紹介します。

[序章] フランシス・ベーコンからブリットポップへ

[第1章] ブロークン・イングリッシュ：ニュー・ジェネレーションの登場

[第2章] おおぐま座：都市のイメージをつなぐ

[第3章] あの瞬間^{とき}を共有する：音楽、サブカルチャー、ファッション

[スポットライト] なぜ私はダンサーにならなかったのか
トレイシー・エミン

[第4章] 現代医学

[第5章] 家という個人的空間

[スポットライト] コールド・ダーク・マター：爆発の分解イメージ
コーネリア・パーカー

[第6章] なんでもないものから何かが生まれる：身近にあるもの

[スポットライト] 王国への入り口
マーク・ウォリンジャー

序章

フランシス・ベーコンからブリットポップへ

PREFACE: FROM BACON TO BRITPOP

20世紀美術史において最も著名な画家の一人、フランシス・ベーコン（1909-92年）は生涯を通じて肉体の表現を徹底して追究し、暴力、苦痛、むき出しの感情で満たされたイメージを創造しました。東西冷戦の終焉という混迷の時代に、人間の姿をより明確に、よりさらに激しく表現しようとした晩年の作品は、1990年代英国の新世代アーティストたちに深くインスピレーションを与えています。不都合な真実に向き合い、人間存在の暗部を掘り下げようとするベーコンの姿勢に影響を受け、かつてないほど強く率直な感情表現を伴って作品制作への様々なアプローチを開拓しようとした当時のアーティストたちの意思こそ、本展の核心を貫くものです。



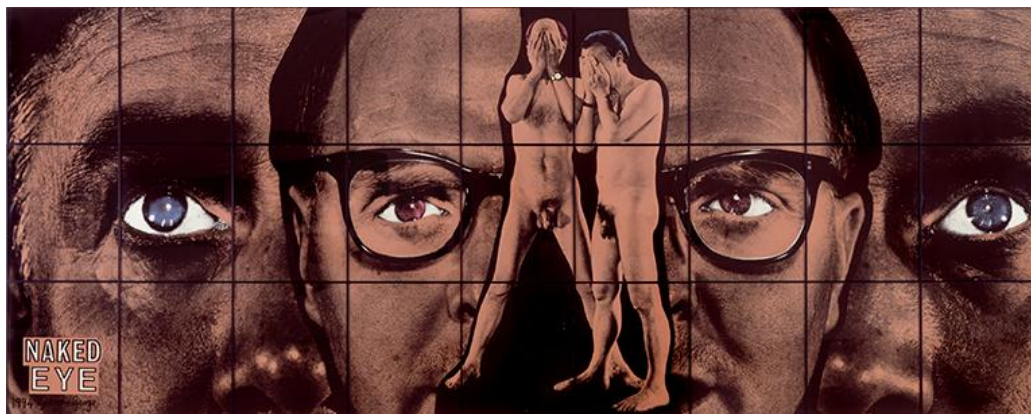
フランシス・ベーコン 《1944年のトリプティック（三幅対）の第2ヴァージョン》 1988年
© The Estate of Francis Bacon. All rights reserved. DACS & JASPAR 2026 G4170

第1章

ブロークン・イングリッシュ：ニュー・ジェネレーションの登場

BROKEN ENGLISH: A NEW GENERATION

サッチャー首相が推し進めた自由市場経済と個人主義に基づく社会再建の中で格差が拡大し、多くの人々が職を失いました。そうした時代に新世代のアーティストたちは、アイデンティティや社会における自身の存在の位置づけ、地域の共同体のあり方が揺らぎ続けることを創作のテーマに据え始めます。1988年にロンドン東部の廃倉庫で開かれたグループ展「フリーズ」はYBAのムーブメントの起点となり、伝統的なギャラリー空間からの決別を象徴的に示すひとつの宣言でもありました。また1989年のヘイワード・ギャラリーでの「ジ・アザー・ストーリー」展は周縁化されていた英国のアーティストに注目し、多文化社会において「英国らしさ」という伝統的な概念に揺さぶりをかけたのです。



ギルバート&ジョージ 《裸の目》 1994年 Photo: Tate © Gilbert & George

第2章

おおぐま座：都市のイメージをつなぐ

THE GREAT BEAR: PICTURING THE CITY



英国の伝統的な製造業は1990年代初頭までに衰退し、経済不況によって未完成のビルや空き店舗、廃墟と化した建設現場が都市の至る所で目立つようになっていきました。芸術への公的支援が極めて少なかった当時、こうした都市の打ち捨てられた周縁部は安価なスタジオや展示の機会を探す若いアーティストたちにとって予期せぬ創造の場となっています。打ち捨てられた物や空間に目を向けながら都市の新しいイメージが生まれる社会的・地理的な経験を探究したアーティストたちは、地域社会のアイデンティティを侵食する社会的・経済的な変化に批判的なまなざしを向け、都市に広がるメランコリーや人々の疎外感を表現しました。

ジリアン・ウェアリング

《ダンシング・イン・ペッカム》 1994年★

© Gillian Wearing, courtesy Maureen Paley, London;
Regen Projects, Los Angeles and Tanya Bonakdar, New York

第3章

あの瞬間を共有する：音楽、サブカルチャー、ファッション

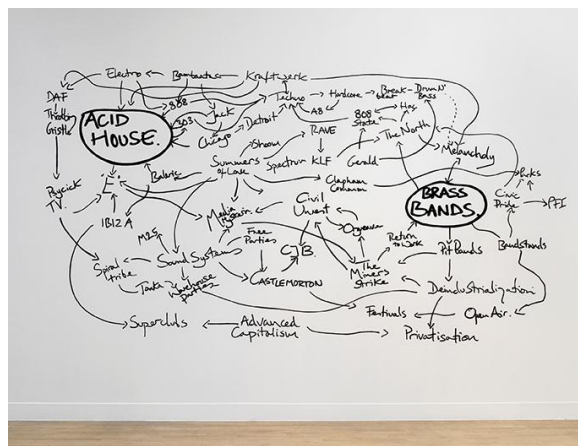
EVERYBODY IN THE PLACE: MUSIC, SUBCULTURE AND STYLE



ヴォルフガング・ティルマンス《座るケイト》 1996年

© Wolfgang Tillmans, courtesy of Maureen Paley,
London; Galerie Buchholz; David Zwirner, New York

1990年代の英国では、美術、広告、ファッション、音楽の各業界が新しく多様な形で互に関係を作り上げるようになっていました。ブリットポップやレイヴ・カルチャーの隆盛、『i-D』『ザ・フェイス』などの誌面を彩ったストリート・ファッションやウエストウッド、マックイーン、ガリアーノらによるオートクチュールが、ユース・カルチャーや大衆文化、セレブリティの概念を更新していきます。アーティストたちは芸術の伝統的な枠組みを打ち破るために音楽の開放的な力に積極的に関わり、作品を通して、急速に変化する政治や社会の中でかけがえのない瞬間や人間同士のつながりを大切にする価値観を共有しました。



ジェレミー・デラー《世界の歴史》 1997-2004年

Photo: Tate © Jeremy Deller

トレイシー・エミンによる自伝的ビデオ作品。映像の前半では育った海辺のリゾート地マーゲイトの風景が映し出され、ティーンエイジャーだった頃の苦しみを語っています。後半ではシルヴェスターのヒット曲「ユー・メイク・ミー・フィール（マイティ・リアル）」（1978年）に合わせて楽しそうに踊り出し、それは過去の苦い経験への勝利を示すものです。これまで語る手段がなかった女性たちの存在に光を当てようとするフェミニズムの課題と共鳴し、時に社会の中で自らの尊厳が脅かされがちな思春期の女性たちにとって多くの共感を呼ぶ作品となっています。



トレイシー・エミン
《なぜ私はダンサーにならなかったのか》
1995年 © Tracey Emin

第4章

現代医学

MODERN MEDICINE

1990年に開催されたグループ展「現代医学」展は、アーティストが芸術・人間らしさ・身体と心の複雑な関係と向き合った画期的な出来事として英国美術史においてよく言及される展覧会です。医学や科学とその倫理的ジレンマに関心を抱いたアーティストたちは、解剖学・病・メンタルヘルスから苦痛や錯乱状態にある身体に至るまでの主題に取り組み、その作品は私たちの感覚・思考・想像を揺るがす力を発揮しました。HIV/エイズ危機が恐怖とスティグマをもたらす中、当時の英国の性に関する政治性を定義するにあたって中心的な役割を果たしたアーティストたちの作品がここに集います。



デレク・ジャーマン
《運動失調—エイズは楽しい》 1993年
Photo: Tate © The estate of Derek Jarman.
Courtesy of The Keith Collins Will Trust

第5章

家という個人的空間

AT HOME: PERSONAL SPACES

90年代の英国アーティストたちは、家族・家庭のあり方・家にまつわる慣習的な表象に挑戦しました。消費主義社会や中流階級の願望に応答するように、家庭生活の荒々しく混沌とした現実を展示空間に再現し、日用品を作品素材として提示することで個人的空間が価値観を形作る過程を人々に問い直しています。皮肉とユーモアを交えジェンダー・ロールやメディアのステレオタイプを批判したアーティストがいる一方、急速に変わる社会の中で都市再開発により消失する生活空間の証しとして、慎ましいオブジェが新しい彫刻として生まれ変わることに関心を向けたアーティストもいました。



サラ・ルーカス《煙草のおっぱい（理想化された喫煙者の椅子Ⅱ）》
1999年© Sarah Lucas. Courtesy Sadie Coles HQ, London



グレイソン・ペリー《私の神々》1994年
© Grayson Perry. Courtesy the artist and Victoria Miro

スポットライト

爆発の分解イメージ
COLD DARK MATTER: AN EXPLODED VIEW

日常的に目にするものを大量に集め、時に変形させ、天井から吊るす彫刻作品で知られるコーネリア・パーカーの初期の代表作の原題「An Exploded View」は「爆発の光景」と「分解図」の二つの意味を兼ねています。英国陸軍に依頼して実際に爆破した庭の物置小屋の残骸を天井から吊るし、中央に電球を設置した本作は、小屋の断片が空間に浮遊しているように見え、爆発の瞬間を切り取ったかのようなイメージを作り出しています。作品はまさにその爆発の過程を経て生まれる新たな世界のイメージでもあり、重力から解放された「彫刻」で破壊と創造を同時に達成しています。



コーネリア・パーカー
《コールド・ダーク・マター：
爆発の分解イメージ》
1991年 Photo: Tate
© Cornelia Parker.
Courtesy Frith Street
Gallery, London

第6章

なんでもないものから何かが生まれる：身近にあるもの

SOMETHING FROM NOTHING: THE QUOTIDIAN OBJECT

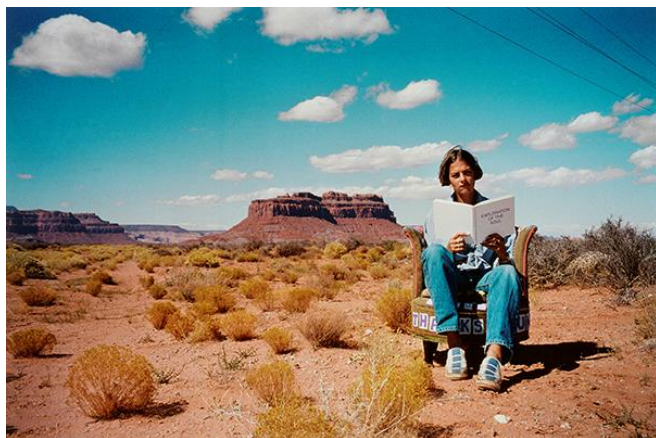
1990年代の多くのアーティストは、安価で手に入りやすく、それ以前は芸術作品の制作に適さないと考えられていた日用品を素材として採用するようになりました。現実の経験から離れすぎた1980年代のコンセプチュアル・アートへの反動でもあったこの実践は、通常見過ごされたり日常生活の中に溶け込んでしまったりするものに対する人々の意識を刷新する力を持っています。最もささやかな介入によって最も大きなインパクトを与えることができるというアーティストの考察を体現した、「出来事や社会的な空間としての芸術」がここに集まっています。



マイケル・クレイグ＝マーティン

《知ること》1996年

© Michael Craig-Martin. Courtesy the artist and Gagosian



トレイシー・エミン

《モニュメント・バレー（壮大なスケール）》1995-97年

Photo: Tate © Tracey Emin

スポットライト 王国への入り口 THRESHOLD TO THE KINGDOM

ロンドン・シティ空港の到着ゲートから人々が出てくる様子をスローモーションで捉えたマーク・ウォリンジャーの映像作品（2000年）。イタリア・ルネサンス期の作曲家グレゴリオ・アレグリが旧約聖書詩篇第51篇をもとに作曲した合唱曲「ミゼレーレ」が添えられ、神に慈悲を求めるその歌詞は空港の厳しいセキュリティチェックにおいて入国しようとする人たちの希望や不安に共鳴しています。制作から四半世紀が経ち、国際政治の舞台で大きな分断が進む状況下で、アイデンティティと帰属への考察を改めて促す重要な意義を持つ作品です。

マーク・ウォリンジャー
《王国への入り口》2000年
© Mark Wallinger.
Courtesy of the artist.



クルーズ YBA& BEYOND 年表

British Art in the 1980s from the Tate Collection



スタート

1980年代後半:伝説の始まり

ART YBAの胎動と、もう一つの物語

ゴールドスミス・カレッジの指導者マイケル・クレイグ＝マーティンの下で学んだダミアン・ハーストら若手アーティストが自主企画「フリーズ(Freeze)」展(1988)でアートシーンに登場する一方、ヘイワード・ギャラリーではアフリカ、アジア、カリブ系の作家に焦点を当てた定期的な展覧会「もう一つの物語(ジ・アザー・ストーリー)」(1989)が開催され、英国美術の多様性を示した。



CULTURE & SOCIETY:



失業率の上昇やエイズの流行といった課題を抱えていた保守党政権下の英国では、アシッドハウスがカルチャー全般を席巻。さらに、アシッドハウスとインディロックが融合したマッドチェスター、シューゲイザー、アシッドジャズといったムーブメントも音楽界を騒がせた。

1990年:新しい才能の胎動

ART 勢いを増す、YBA「現代医学」展

「フリーズ」展の成功を受け、ダミアン・ハーストらが企画、使われなくなったビスケット工場「ビルディング・ワン(Building One)」を舞台に、より大規模なグループ展を開催。



CULTURE & SOCIETY:



全国民から一律同額の税金を徴収する人頭税導入を受けて全国で抗議行動が起きる中、求心力を失ったマーガレット・サッチャーが首相を辞任。ジョン・メージャーが新たに首相に就任した。日本でも人気を誇ったコメディ番組「ミスター・ビーン(Mr. Bean)」の放映が始まったのもこの年で、主演のローワン・アトキンソンと番組を考案したのは、のちに映画界に演出して多数のヒット作を手掛けるリチャード・カーティス。

1992年:巨匠の死と、新世代の台頭

ART 新世代の戴冠「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト I (Young British Artists I)」展

「アートフォーラム」にてマイケル・コリスがYBAという呼称を使用する一方、サーチ・ギャラリーでハーストの「サメ」が初公開され、社会現象に。この展覧会で「YBA」の名は不動のものとなる。同年、彼らに影響を与えた巨匠フランシス・ベーコンが死去し、世代交代を印象付けた。



CULTURE & SOCIETY:

イングランドにおけるサッカーの一部リーグ、プレミア・リーグが開催し(1992〜93シーズンはマンチェスター・ユナイテッドが優勝)、英国とアイルランドのミュージシャンを対象に、ジャンルを問わず良質のアルバムに贈られる音楽賞マーキュリー・プライズが創設される。ブライマル・スクリームの「スクリーマデリカ」が初代受賞作に。

1991年:衝撃、アート界を走る

ART アートシーンの表舞台への進出と衝撃的な始まり

サーベント・ギャラリーでの「ブロークン・イングリッシュ」展でYBAの作家たちが公的な場で発表する一方、コレクターのチャールズ・サーチがダミアン・ハーストにホルマリン漬けされたサメの作品《生者の心における死の物理的不可能性》の制作を依頼し、YBAへの注目が一気に高まる。そして、アニッシュ・カプアが英国美術界の最高榮譽であるターナー賞受賞。この年からターナー賞の受賞者が50歳未満の作家に限定され、また候補者の作品がテート美術館で展示されるようになった。これ以降、ターナー賞は1990年代に台頭する新世代のアーティストやコンセプチュアル・アートの展開と結びつくようになっていった。

CULTURE & SOCIETY:

90年代のダンス・カルチャーを牽引したロンドンのクラブ、ミニストリー・オブ・サウンドがオープンし、アート雑誌「フリーズ(Frieze)」、ファッション&カルチャー雑誌「デイズド&コンフューズド(Dazed & Confused)」(のちの「Dazed」)、ホームレスの人びとの自立をサポートする「ビッグ・イシュー」など、いずれも大きな影響力を持つことになる雑誌が相次いで創刊。他方でクイーンのフレディ・マーキュリーがエイズによる合併症で死去し(享年45歳)、社会に暗い影を落とした。

1993年:「家」がアートに。 ターナー賞受賞作となる

ART レイチェル・ホワイトリード、《ハウス》でターナー賞受賞

取り壊し予定の家屋をコンクリートで型取りした作品《ハウス》を発表。公共空間におけるアートのあり方を問い、物議を醸しながらも、女性として初めてターナー賞を受賞する。その後、ポップバンドKLF主宰のK財団が「今年のワースト・アーティスト」賞をホワイトリードに贈る。

CULTURE & SOCIETY:

スウェードのブレット・アンダーソンが表紙を飾る音楽誌「セレクト」4月号に、「ブリットポップ」という言葉が初めて登場。UKロックの復権を唱える一方、ボーイズグループのティク・ザットが3曲を全英チャート1位に送り込んでブレイクした。英の基準にも「ヘロイン・シックス」と呼ばれる新たな流れが浮上し、スキニーなモデルが人気を集める。テート・ギャラリーの別館テート・セント・アイヴスの開館も話題に。

1994年: UKカルチャーの黄金期へ

ART YBA、世界へ

YBAのアーティストたちが、サーチ・ギャラリーでの展示をきっかけに、国際的な舞台へ進出。



CULTURE & SOCIETY:

サード・アルバム「パークライフ」を発表したブラーの先導でブリットポップが本格化すると共に、新たに開設された海賊ラジオ局RinseFMがドラムンベースやUKガレッジを発信し、ダンス・ミュージックにも新たな潮流が。一方で英国政府が刑事司法及び公共秩序法を制定し、レイヴ文化の取り締まりを始めた。また、同性愛者であることを公言していた映像作家デレク・ジャーマンがエイズで亡くなったこの年、ゲイ雑誌「アディチュード」が創刊されると共に、英国国教会が初めて女性の司祭の就任を認めた。





1996年：ポップカルチャーの爆発

ART 多様化する表現

サラ・ルーカスが目玉焼きを使ったセルフポートレートでジェンダー規範を問い、ヴォルフガング・ティルマンスが時代のユースカルチャーを写真に収める。ダグラス・ゴードンがターナー賞を受賞。

CULTURE & SOCIETY:

オアシスが2日間に25万人を集める野外コンサートを行なって凄まじい人気を見せつけるが、スパイス・ガールズという新たなスターが出現。ファッション界ではアレキサンダー・マックイーンがジパング・ジョン・ガリアーノがクリスチャン・ディオールに抜擢され、英国人が相次いでバリのオートクチュール・メゾンのクリエイティブ・ディレクターに就任。映画「トレインスポッティング」も大ヒットして、英国発カルチャーが世界を席巻する。



1995年：アート界の寵児、頂点へ

ART ダミアン・ハースト、ターナー賞受賞

ホルマリン漬けの牛と子牛の作品で、ついにダミアン・ハーストがターナー賞を受賞。この時代の英国アートシーンの隆盛を象徴する出来事となった。

CULTURE & SOCIETY:

ブライアン・イーノが起動力を手掛けたWindows 95が発売され、デジタル時代の幕が開けた。この年、話題を独占したのはブラーVSオアシス対決の激化。8月に同時にシングルをリリースして全英ナンバーワンの座を競い、ブリットポップ・ブームが過熱した。同時に、タブラ奏者/プロデューサーのタルヴィン・シがクラブ・イベント「アノカ」を始め、アジア系英国人ミュージシャンたちによる独自のサウンドを世に送り出す。また、英国によるスコットランド侵襲行為を批判した、アレクサンダー・マックイーンの「ハイランド・レイブ」コレクションが話題に。

1997年：一大センセーション到来

ART アート界の衝撃とカルチャーの交差

ターナー賞の候補者が史上初めて全員女性となり、ジリアン・ウェアリングが受賞。そしてYBAを代表する展示となったロイヤル・アカデミーの「センセーション」展が社会現象となる一方、ジェレミー・デラーはアシッドハウスをプラスバンドで演奏する《アシッド・プラス》を発表。英国の伝統とサブカルチャーが作品の中で交差した。

CULTURE & SOCIETY:

香港の中国返還、ウェールズ公妃ダイアナの事故死に加えて、労働党による18年ぶりの政権奪還が英国社会に大きなインパクトを与え、新首相のトニー・ブレアは「クール・ブリタニア」の旗印の下に英国発のカルチャーの振興を国策に取り入れる。レディオヘッドの名盤「OK コンピューター」の発売、J・K・ローリング著のハリー・ポッター・シリーズ第一弾「賢者の石」の出版、異色の子供向けテレビ番組「テラビーズ」の放送も注目を集める。



1998年：物議を醸すアートのか

ART クリス・オフィリ、ターナー賞受賞

象の糞を使った聖母マリアの絵画で、クリス・オフィリがターナー賞を受賞。多様な文化的背景を持つアーティストの登場と、宗教や伝統をめぐる表現が再び大きな議論を呼んだ。

CULTURE & SOCIETY:

前年のポール・マッカートニーに続いてエルトン・ジョンがナイトの称号を授与され、のちにふたりの後を継いで英国を代表するアーティストへと成長する、元テイク・ザットのロビー・ウィリアムスがシングル「ミレニアム」で初の全英ナンバーワンを獲得。他方、英国とアイルランドの間でベルファスト合意（暫定協定）が結ばれ、長く続いた北アイルランド紛争に終止符が打たれた。英国で死刑が完全に廃止されたのもこの年。



2000年：テート・モダン開館

ART 時代を象徴するアートと、新たな拠点

2000年、ジュリアン・オビーがブラーのベスト盤ジャケットを手掛け、英国コンテンポラリーアートとブリットポップが融合。同年に写真家として初めてヴォルフガング・ティルマンスがターナー賞を受賞する。そして現代アートの新たな殿堂テート・モダンが開館。現在に至るまでYBAの作家、そして彼らと同時代の重要な作品を数多く収蔵。

CULTURE & SOCIETY:

21世紀へ、ブリットポップが時代を築き、その熱狂は新たな音楽やカルチャーの胎動へと繋がっていく。



1999年：私のすべてがアートになる

ART アートの多様性とターナー賞

候補者の一人であったトレイシー・エミンが、精神的に不安定な状態で4日間過ごした自身のベッドを、コンドームや下着、空の酒瓶といったゴミと共にそのまま作品とした《マイ・ベッド》を「ターナー賞展」に出品し、論争を呼ぶ。一方、受賞者は、映像作家のステイヴ・マックイーン。サイレント映画のスター、バスター・キートンへのオマージュ作品などでターナー賞を受賞。

CULTURE & SOCIETY:

地方分権政策のもと、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドへの権限委譲に伴って独自の議会が創設され、新世紀到来を記念するプロジェクトの一環として、ロンドンにミレニアム・ドームとロンドン・アイが開業。そんなロンドンの美しい街並みを背景にした映画「ノッティンゲルムの恋人」が大ヒットし、スパイス・ガールズのヴィクトリア・アダムスとサッカー選手デヴィッド・ベッカムの結婚がゴシップ欄を騒がせた。



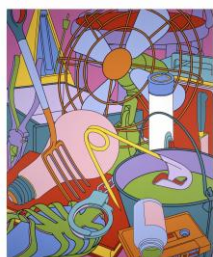
公式テーマソング

2025年にロンドンのテート・モダン（Tate Modern）から歌唱パフォーマンスを届けた実績を持つ Vaundyが、本展の公式テーマソング「シンギュラリティ」を書き下ろしました。あわせて、本展アンバサダーの齋藤飛鳥が、公開されたSPOT映像のナレーションを担当しています。ジャケット写真には本展にも作品が展示され、90年代の英国美術に決定的な影響を与え、多くの若手作家を育ててきたマイケル・クレイグ＝マーティンの作品を使用。アートと音楽が交差するビジュアルとともに、楽曲は東京展の開幕日である2026年2月11日（水・祝）に配信リリースしました。

ロンドンの「Old Royal Naval College（旧王立海軍学校）」を舞台に収録した「Vaundy LIVE in London」（Vaundy WOWOW original live Special 第2弾）の実施や、Abbey Road Studiosでのレコーディングを行った楽曲の発表など、現地ロンドンと接続した表現を重ねてきたVaundy。本展が描くUK90sの熱気を、Vaundyならではのサウンドで鮮やかに鳴らします。

「テート美術館 - YBA&BEYOND 世界を変えた90s 英国アート」公式テーマソング

シンギュラリティ 2026年2月11日（水・祝）配信リリース



シンギュラリティ

【楽曲情報】

タイトル：シンギュラリティ

アーティスト：Vaundy

作詞・作曲・編曲：Vaundy

視聴・ダウンロード：<https://lnk.to/singularity>

予告SPOT映像：<https://youtu.be/TerB10IEhcA?si=aScIk6cUjPXeaUu0>

◆Vaundyコメント◆

テートモダンへはイギリス滞在時によく足を運び、1人ゆっくりと絵を描いたりなど心地いい時間を過ごした場所のひとつです。膨大な収蔵数とその作品ごとの技法や表現を目の当たりにして、時に打ちのめされながらも刺激をたくさんもらいました。

「シンギュラリティ」は時代や場所を問わず、すべてのものづくりへの愛を表した曲です。ものづくりを通して特異点への旅をする。その表題に相応しい曲になったと思います。

◆Vaundyプロフィール◆

Vaundy（バウンディ）。25歳。作詞、作曲、アレンジを全て自分でこなし、デザインや映像のディレクション、セルフプロデュースも手掛けるマルチアーティスト。2019年春頃からYouTubeに楽曲を投稿開始。

「東京フラッシュ」「不可幸力」など、耳に残るメロディーと幅広いジャンルの楽曲で、瞬く間にSNSで話題となる。デビュー以降、サブスク令和時代の象徴的な存在として注目を集めており、17曲が1億回再生を突破、日本ソロアーティスト1位の記録を打ち出している。

2025年春現在、サブスクリプション・YouTubeのトータル再生数は、95億回以上を突破。リリース配信楽曲は長期にわたりチャートインし、CM、ドラマ、映画、アニメなど各方面でのタイアップ曲に起用されている。

活動の幅は多岐にわたっており、「逆光」(Ado)、「透明になりたい」(平野紫耀/Number_i)、「おもかげ」(milet×Aimer×幾田りら)など、楽曲提供及びプロデュースでその手腕を余すことなく発揮。菅田将暉「惑う糸」や、自身の作品「僕にはどうしてわかるんだろう」「タイムパラドックス」「風神」等では、ミュージックビデオの監督も務め、マルチな才能を発揮している。

ロンドンで収録した劇場版「Vaundy LIVE in London」(WOWOW)も全国劇場で公開し、大きな反響を集める。開催したライブは全て即日完売。自身初となる日本武道館2days公演は26000人を動員、2023年秋開催初の全国アリーナツアー(6都市12公演)は150,000人を動員。2024年秋にはアルバム「replica」を引っさげた全国10都市20公演アリーナツアーは約250,000人を動員。2025年7月からはオフィシャルサイト会員限定 全国13都市28公演ホールツアーを開催。2026年には自身最大規模 男性ソロアーティスト史上最年少記録となる4大都市ドームツアーを開催、全公演完売している。

唯一無二の天性の声、ジャンルに囚われない幅広い楽曲センス、破格の才能を感じさせる多面的な音楽表現で、ティーンを中心にファンダムを急速に拡大し、令和の音楽シーンを牽引している。



【Vaundy Official Website】 <https://vaundy.jp/>

【Vaundy Official YouTube】 <https://www.youtube.com/c/Vaundy/videos>

【Vaundy Official Instagram】 https://www.instagram.com/vaundy_engawa/

【Vaundy Official X】 https://x.com/vaundy_engawa

【Vaundy ART Work Studio Membersサイト】 <https://member.vaundy.jp/feature/entry>

音声ガイド情報

本展アンバサダーを務めるのは、細野晴臣と齋藤飛鳥。
音声ガイドをはじめ、様々な形で本展の見どころや世界観をナビゲートします。
音声ガイドでは、細野晴臣による未発表曲『Anemo Wheel』をBGMとして先行公開します。

<音声ガイド>

展覧会会場入り口にて販売。

料金：650円（税込）

<音声ガイドの仕様について>

・本サービスはご自身のスマートフォンから二次元コードにアクセスしWEBブラウザでお楽しみいただけます。ご利用を希望される場合は、スマートフォン、イヤホン等を忘れずにご持参ください。



お得なチケット情報

京都会場早割チケット【はんなり早ごよみチケット】

京都会場を前売券よりお得な価格で観覧できる、期間限定の早割チケット。

料 金：1,900円（税込） ※「一般」のみとなります。

販売期間：2026年2月13日（金）10:00～3月12日（木）23:59

取り扱いプレイガイド：イープラス <https://eplus.jp/ybabeyond-kyoto/>

YBA & BEYOND収納ケース入りエコバッグ付き前売券 ※河村康輔デザイン

河村康輔がデザインしたラインナップ・ビジュアルが反映されたYBA & BEYOND収納ケース入りエコバッグ付き前売券。本券1枚につき【グッズ引換券】が1枚付きます。商品の引き渡しは会場のみとなります。配送サービスは行っておりませんので、ご了承の上ご購入ください。

料 金：4,650円（税込）

販売期間：3月13日(金)10:00～5月31日（日）23:59

取り扱いプレイガイド：イープラス <https://eplus.jp/ybabeyond-kyoto/>

※お申込みはお一人様1回のみとなります。

※本券の変更・払戻・再発行・転売不可となります。

※予定数に達し次第、販売終了。

※予定数に達した場合、会場での販売はございません。

※不良品以外の理由による「特典グッズ」の交換はいたしません。

※期間中有効券の為、開催日時をご確認の上ご購入ください。

※会場への電話でのお問合せはご遠慮ください。



画像はイメージです。実際の商品とはデザイン・色・サイズが変更になる場合がございます。

サイズ：（本体）約W390xH640xD150mm（取っ手含む）
（収納ケース）約150×150mm（カラビナ付き）

ペアチケット

一般入場券2枚のお得なセット券です。

2名様でご来場ならびに1名様で2回ご来場の場合でもご利用いただけます。

料 金：4,000円（税込）

販売期間：3月13日(金)10:00～6月2日（火）23:59

取り扱いプレイガイド：イープラス、ローソンチケット

関連イベント

◆オープニングトーク

テート美術館スタッフによる、開幕を記念したトークイベント。

日時：6月3日（水）

会場：京都市京セラ美術館内

◆特別上映会

公開から40周年を迎えるブラック・オーディオ・フィルム・コレクティブ〈ハンズワースの歌〉を特別に劇場上映します。英国社会で人種の平等に対する意識変容を促した80年代後半のドキュメンタリー映像を、ぜひ劇場でご鑑賞ください。

日時：7月5日（日）

会場：アップリンク京都（京都市中京区「新風館」B1F）

※上映会会場は美術館と別会場です。ご注意ください。

※参加無料、いずれも本展の観覧券が必要（半券可）

※イベントの詳細や参加方法、このほかのイベント情報は、展覧会公式サイトでお知らせします。

開催概要

展覧会名：「テート美術館 — YBA & BEYOND 世界を変えた90s英国アート」

会 期：2026年6月3日（水）～9月6日（日） 84日間

開場時間：10:00～18:00（入場は閉場30分前まで）

休 館 日：月曜日（祝日の場合は開館）

会 場：京都市京セラ美術館 新館 東山キューブ

入場料金：

（税込）

	一般	大学生	高校生	中学生以下
当日券	2,300円	1,500円	900円	無料
前売・団体	2,100円	1,300円	700円	

※前売り券販売期間 2026年3月13日（金）10:00～6月2日（火）23:59

（YBA & BEYOND収納ケース入りエコバッグ付き前売券は3月13日（金）～5月31日（日）の販売、ペアチケットは前売販売期間のみの販売）

※中学生以下入場無料（未就学児は要保護者同伴）

※団体料金は20名以上

※専門学生は大学生料金で入場可能

※学生料金でご入場の方は学生証のご提示をお願いいたします。

※障害者手帳等をご提示の方は本人及び介護者1名無料

（障害者手帳等確認できるものをご持参ください）

販売場所：e+（イープラス）、ローソンチケット、チケットぴあ、セブンチケット、アソビュー！、KKDAY、楽天トラベル、CNプレイガイド、京都市京セラ美術館オンラインチケット

主 催：テート美術館、ソニー・ミュージックエンタテインメント、ABCテレビ、キョードーエンタテインメント、京都新聞、FM802/FM COCOLO、京都市

協 賛：バーバリー

協 力：日本航空、ヤマト運輸

後 援：プリティッシュ・カウンスル

公式ホームページ：<https://www.ybabeyond.jp/>

お問い合わせ（京都会場のみ）：展覧会に関するお問い合わせ 京都市京セラ美術館 075-771-4334

京都会場チケットに関するお問い合わせ

キョードーインフォメーション 0570-200-888

（12:00～17:00／土日祝休み）

X：@ybabeyond

Instagram：@ybabeyond

Facebook：@ybabeyond

《報道関係者お問い合わせ先》

「テート美術館 — YBA & BEYOND 京都展」広報事務局（TMオフィス内）担当：馬場・永井・西坂

MOBILE：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

TEL：050-1807-2919 FAX：050-1722-9032 EMAIL：ybabeyond@tm-office.co.jp